

# 平成25年度 学校自己評価システムシート ( 県立吹上秋桜高等学校 )

目指す学校像	多様な学習歴や生活環境、ライフスタイルを持った生徒の新たなチャレンジとことん支援する学校
--------	--

重点目標	1 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の涵養 3 生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に即した進路指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		実施日 平成26年2月13日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識や進路意識をしっかりと持って講座を選択し、学習活動に積極的に参加する生徒も多い。反面、学習活動に消極的で学習内容が定着せず、基礎学力が乏しい生徒も少なくない。</li> <li>未履修科目を持つ生徒の割合が32%にのぼっている中、授業の大切さを自覚させる指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の興味、関心及び進路に応じた科目の履修指導と、少人数システムを生かした効果的な学習指導を展開する。</li> <li>英数国などの積み重ね科目において、生徒がどの時点で躓いたかを把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①秋桜スタンダードを生かした指導計画を立案し、実施する。</li> <li>②学習支援室での補習を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1年次、2年次では基礎力診断テストを年2回実施し、判定結果を指導に生かす。</li> <li>②学習支援員と連携し、生徒の躓き箇所を把握し、学習指導に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業への取組状況等について学校自己評価調査票の回答結果が改善したか。</li> <li>②補習に参加した生徒の学習に対する意欲が向上し、成績への反映が見られたか。</li> <li>③基礎力診断テストでのD3判定が減少したか。</li> <li>④未履修率が減少したか。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果は昨年度と同様の傾向を示した。授業はきちんと受けるが、自主的に学習する生徒の割合は約24%であった。</li> <li>定期考査前に学習支援室において、補習を実施した。参加した生徒の未履修率、欠点保有率ともに4%であった。</li> <li>現2年次生について、D3判定の比率が72.4%あり、1年次調査の65.1%に比べ、悪化している。</li> <li>未履修率は前期26.3%と減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業以外の学習に取り組むきっかけを提供し、予習・復習の習慣をつけさせるようにしたい。</li> <li>基礎学力向上のため、学習支援室における平日の補習体制や使用教材について、現在検討中である。</li> <li>授業に取り組む姿勢を引き続き指導するとともに、秋桜スタンダードを生かしたわかりやすい授業や、協調学習などの学習活動を研究・実践し、基礎学力の定着に一層努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のリーダーシップの下、学校運営がしっかりと機能して、成果に現れていると感じる。</li> <li>学校自己評価調査の結果から、保護者の学校に対する協力の姿勢が伺えるが、評価の数値が全体的に低下しているところが気になる。数値が低下している項目を精査し、学校自己評価シート上で明らかにするべきである。</li> <li>秋桜スタンダードの実施は評価できる。一層の実施を図り、生徒の基礎学力の向上に努めていただきたい。また、来年度、補習体制を強化すると聞いたが、こちらもぜひ頑張っていたきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学時代に不登校だった生徒の5割に改善が見られた。しかし、一部生徒に規範意識を欠いた者が見られ、ルールとマナーの向上を図る指導が課題である。</li> <li>選択科目が増加し、生徒の時間割に空き時間帯が生じ、中抜け等の無断外出の指導が難しくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の中で、社会の一員としてのルールとマナーを常に意識させ、基本的生活習慣を定着させる。</li> <li>教務事務システムのデータを利用した生徒指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①立哨指導や校外巡回指導を実施し、問題行動の防止に努める。</li> <li>②保護者及び外部機関と連携し、生徒指導への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①面談等で、出席・成績情報を生徒や保護者に提供し、生徒指導等に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遅刻や中抜け等の無断外出、問題行動の件数が減少したか。</li> <li>②集団生活におけるルールとマナー、整容等の向上が見られたか。</li> <li>③教務事務システムでのデータが、面談や生徒指導に活用されたか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導については、全教員で実施し、成果が上がった。II部の給食後における巡回強化と、昼休みに校門で実施している立哨指導を2名で対応したい。</li> <li>また、整容指導については生徒指導部中心に進路指導部、年次団と連携を図り、指導形態や実施時期について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒特別指導の件数について、今年度は特に、4月から9月の前期において、大幅に減少している。これは、教員がしっかりと指導した成果が現れたものであると感じた。生徒健全育成のため、引き続き指導をお願いしたい。</li> <li>本校生徒は挨拶がよくできている。また、私の子供は、中学校時代は休みがちであったが、高校に入学以来、1日も休んでいない。それだけ魅力のある学校であると感じている。</li> <li>いじめがないことは、とてもすばらしい。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>一期生に続き、二期生の進路実現に向けた支援を強化する。</li> <li>4年次生の39%、3年次生の28%、2年次生の28%、1年次生の38%で進路希望が未定である。卒業後のイメージを持ってない生徒の進路意識を啓発し、授業への意欲を喚起させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の興味関心や、適性を認識させる指導の機会を多く持ち、生徒の進路意識を啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①産業社会と人間、総合的な学習の時間及びLHRを活用して、計画的なキャリア教育を実施する。</li> <li>②4つの系列やモデルプランを生かした科目選択・履修指導を行う。</li> <li>③進路実現のための補習を実施し、学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路決定率が向上したか。また、就職率が県定時制高校の平均を上回ったか。</li> <li>②各年次生における進路希望未定者が減少したか。</li> <li>③平日補習、長期休業中の進路補習が計画的に実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路決定率が昨年度比10%向上した。また、就職率は80%(県定時制高校51.4%)で健闘した。</li> <li>1年次2年次生の進路希望未定者は減少したとはいえないが、3年次生は減少傾向にある。</li> <li>3年次生は毎週水曜日及び長期休業日に10日間、1・2年次生は長期休業日に5日間の進路補習を実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済状況等の事情により、就職希望者が増加した。来年度も増加の調査結果となっており、年次団と連携し、就職指導を一層充実させる。</li> <li>進路決定ができない生徒の指導が課題である。</li> <li>多様な進路に対応させるためには、基礎学力が大切である。補習を充実させ、入試等の学力試験に対応できるようにすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施した、各進路行事については、昨年度の反省等を踏まえたPDCAサイクルを機能させたものとなっており、進学、就職ともに実績が向上していることは評価できる。</li> <li>就職希望者が増加したとあるが、就職指導の具体的な課題を明確にし、生徒の発達段階に応じた指導が実践されていることが伺えた。特に就職の場合は面接時における生徒の対応が大きな鍵になる。ふさわしい対応ができるよう、日頃からの継続的な指導をお願いしたい。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会や、不登校の子供を持つ保護者等から注目され、HPアクセス数も21万件を超えた。</li> <li>高大連携事業は順調であり、継続していく。</li> <li>PTA、後援会等と継続して連携するとともに、地域の理解を得るため、駅の清掃等、ボランティア活動を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力あるHPを作成し、時機を得た情報発信や広報活動を実施する。</li> <li>PTAや地域及び近隣の大学や専門学校との連携事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①HPの更新を計画的に実施する。</li> <li>②ラインネットを活用した情報発信を行う。</li> <li>③地域のボランティア活動への積極的な参加を働きかける。</li> <li>④大学や専門学校との連携事業を活発化させ、参加生徒への支援を図る。</li> <li>⑤PTAや後援会行事の日程、連絡方法等の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①HPの内容が充実したか。また、利用者が増加したか。</li> <li>②ラインネットによる情報提供を何件実施したか。</li> <li>③ボランティア参加者が増加しその感想が好評であったか。</li> <li>④連携事業への参加生徒が増加し、その感想が好評であったか。</li> <li>⑤PTAや後援会行事への参加者が増加したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPは全面的に改訂を行い、随時更新した。9月からの5ヶ月間で、学校説明会のページアクセスが2,600件を超えた。</li> <li>ラインネットでの情報提供を10件実施した。</li> <li>ボランティア参加者はのべ34名で、昨年度より減少したが、参加生徒は意欲的で、自ら考え行動する精神を養うことができた。参加生徒からは好評を得た。</li> <li>PTA、後援会行事は前年度と同程度の充実度、参加者数であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPはアクセス数の多かった頁を中心に、更に内容を充実させたい。</li> <li>ラインネットは、アドレス登録を生徒、保護者に周知徹底したい。</li> <li>有志活動のため、参加生徒が固定化し全校的な取り組みができていないという懸念がある。</li> <li>行事等の直近になってからの連絡が多かった。先を見たゆとりある通知が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの更新について、初任者に担当させているということであるが、初任者研修の一環として自校のことに知るといった側面を持たせていることは大変評価できる。</li> <li>保護者が学校へ行くと、子供たちはそれ相応の対応をするものである。保護者が気軽に学校に足を運べるよう、行事などをいろいろ工夫することが望まれる。</li> </ul>	